

令和 8 年 第 2 回 教育委員会定例会議事録

招 集 日 時 令和 8 年 2 月 27 日（金曜日）午後 1 時 30 時開会／午後 3 時閉会

招 集 場 所 加賀市民会館 2 階 第 2 会議室

教 育 長 松本向貴

出 席 委 員 篠原隆一、山下裕嗣、新滝有紀子、川向恵

会議列席者 小林事務局長、伊藤政策官、北市次長兼学校指導課長、小茂出教育庶務課長、柴木生涯学習課長、
庄田中央・山中図書館長、寺山スポーツ課長、前田文化課長、山下教育庶務課リーダー

令和 8 年第 2 回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

○松本教育長 まだ加賀市に引っ越してきて 1 年経っていないですけど、雪もすっかり解けて、春夏秋冬を一通り経験したかなというふうに思っております。1 年が経って加賀市の豊かな自然や文化に触れる中で、自分自身もずっと学び続けていくこと、勉強することがいっぱいだというふうに改めて思っていますし、子どもも大人も健やかに育っていくために、それぞれ季節色とりどりの豊かな自然であったり食事だったり様々楽しめるものがあって、こういったものの良さをもっと引き出していくということを教育、スポーツ、文化全ての領域で改めてやっていかないといけないなというふうに思いました。また直近でここ 1 ヶ月での業務ということだと、防災会議というものに市や外部の方々もご参加いただいているんですけども、その中で大雨などに関する避難の警報の在り方が変わるということで、これまで特別警報や警報というかたちだけだったものが、レベル 3 とかレベル 4 とかそういう名前をつけて、いくつになったらもうその場にいる人はすぐに避難してくださいということや、レベル 3 からだったと思うんですが、ご高齢の方とかちょっと移動が困難な方は気を付けてくださいみたいに、そういうふうにアナウンスが次の年度から変わっていくというお話があって、そういう知識のアップデートというものの、まさに命を守るための防災という観点では、それは子どもも大人もしっかりアップデートしてかないといけないなと思いましたが、逆に特別警報、警報みたいなずっと耳慣れてきていたものすらどんどん変わっていく時代なんだなというふうに思うと、やはり個別の知識・技能ということだけじゃなくて、きちんと生涯にわたって常に学び続けて自分の考え方や知識をアップデートしていける、そういう人を育てないといけないなと改めて思われた次第です。年度内の大きな仕事としてまさに来年度予算を決めるという議会が本日開会をしまして、また来週再来週というふうに続きますけれども、ぜひ本日、来年度に向けて力強く踏み出せるような応援も含めて様々貴重なご意見をいただければというふうに思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、審議案件に早速入りたいと思います。本日審議案件 5 件ございます。議案第 1 号から議案第 4 号までは非公開案件となりますので、まず議案第 5 号、加賀市教育ビジョンについて私からご説明をいたします。

● 議案第5号 加賀市教育ビジョンについて

松本教育長

資料に基づき説明

○松本教育長 この件について何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

○篠原委員 私はプロジェクト6の地域・保護者との協働と支援というところが非常に気になっているところです。前々から教育長さんもおっしゃっているように、ふるさとを大事にしていく、ふるさと教育を充実していこうということ、それからそれに伴うコミュニティ・スクール、学校運営協議会の充実ということが今回きちんと明記されましたので、大変これは良い方向だなというふうに思っています。私は今ある学校の学校運営協議会にオブザーバーと呼ばれていて、意見を述べることはできないんですけど、そういう立場で感想などを述べさせていただくこともあるんですが、やはり小学校も中学校ももっと地域とのつながりというのを大事にしてほしいなということをつくづく感じております。例えば総合的な学習の時間のテーマにしても、私がお呼びいただいている学校は来年度で変えていこうということを今学校長さんがおっしゃっていましたが、やはりもっともっと地域に結びついた地域の課題をやっていただきたい。例えば中学校に行けば加賀市全体の課題なんかも大事なのかもしれませんけれども、加賀市全体ではなくて例えば大聖寺なら大聖寺だとか、あるいは片山津なら片山津とか、山代なら山代、山中なら山中というそういう地域コミュニティの中で、どういうかたちで中学校の子ども達はこれから自分の地域を発展させていくか、自分たちが担っていくためのひとつとして、参画していくための提言みたいなものを考えていくこと、それが非常に大事なことになるのではないかなと思います。仮に中学校を出て高校を出て大学に行けば全国に散らばるかもしれませんが、また将来的に戻ってくる可能性もあるし、ぜひ小学校中学校の間に各自分の住んでいるまちをどうしたらいいのかというような視点での総合的な学習の時間のテーマみたいなものをひとつきちんと持っていいただければ、あの年代の子はこういう提言をしてくれたねとか、じゃあやれるところはまちづくりでやってみようかということで、またそれが具体化していく場合もありますし、私もまちづくりの活動を地域の中で参加しておりますけど、どうしても高齢者の立場で頭がだんだんで固くなってきているので、もっと小中学生の柔軟な頭脳での提言などを非常に楽しみにして待っているわけなんですけど、やもするといろいろ提言をしたって加賀市全体にはいいかもしれないけども、我々の地域でどうなのかなということちょっと疑問に感じるころもありましたので、もっとコミュニティ・スクールを充実させるという意味からも、もっと地域に根差したそういう提言とか活動とか、そういうことを先ほどのプロジェクトの中の6番の中に入れていってふるさと学習の充実を図ってほしいなと思うのが私の今の考えでございます。

○松本教育長 ありがとうございます。ふるさと学習ということは市長の思いでもあるということ私は私も認識しております。もちろん学校教育というのは基本的には政治的中立に立ったものなので、市長が言ったら全部内容が変わるということでは当然ないんですけども、ただもちろんそういった思いの方々に構成されている地域の中で子ども達が学んでいくということの中で、当然地域ということについて子どもの興味関心、どういう単位で世界をとらえていって、自分の身の回りって何で今こういうふうになっているんだろうということや、あるいは日々の授業の中で、例えば自分の身の回りのこういうことだよなというものをどれだけふんだんに盛

り込んでいけるかというところは当然重要な視点だと思っています。昨年12月に開催されたKAGA STEAM FESにおいても、地域をもっともっと盛り上げていくような提案というのを私自身も見せていただきました。やはり子ども達自身がそれをもっとやってみたいというふうに火がついている姿が何よりも素敵だなと思いましたので、先生方がそういう子どものやってみようとか、地域のことが好きとか、地域学習でも何でも全力でやってみようという、そういう思いを育むというところ、それから先生も幸せにということも掲げている中で、やはり教職免許課程で学ぶことではありませんから、きちんと忙しい中でも効率的に地域のことを先生自身も知りながら、それを自分の授業をもっと面白くするために生かしていくということで、そのためにさらにいうとカリキュラムマネジメントとかも必要になってくると思います。例えばSTEAM FESでも地域の発表をやっていた山代小学校とかだと、国語の授業から広げた子ども達の興味関心を社会の中で広げていく総合学習というふうに、大変だった取り組みというものをやっぱりチャレンジしていて、そういったものがそれぞれの学校の中できちんと花開いていくようにということを、もういろんな学校でいろんな先生方の中でアイデアが生まれてきていますから、もっともっと育てていきたいなとも私も思っています。ありがとうございます。

他、ございませんか。

○山下委員 山中はコミュニティ・スクールがなくても元から学校現場と地域が割と一緒になっているのであまり見えなかったんですけども、これは大事だと思いますし、今こうやってBE THE PLAYERをやっていく中で、2年半前から最初の「自分で考え 動く 生み出す」そして世界を変えるというこの大きな部分に対して、ずっと何かひっかかるものがあったんですけども、最近ちょっと見つけたのが、ベクトルが見えないんですね。自分で考えるのはいいんです。自分で考えるのは大事なことですけれども、そこから次に動く、生み出す、誰が何してとってくるので。やはり自分で考えて、個別最適で自分で自立した学びというのは大事な部分であります。それでスタートして、この協働という部分を少し学年が上がるに従って協働を前に持ってくるようなビジョンができないかなと。この大きなタイトルの自分で考える部分に対して私個人の意見として、自分で考え、自分たちが動く、生み出す、要するに複数になってくる。そしてみんなで世界を変えるというふうに主体とベクトルを方向で出すと、同じベクトルを向いている方が一緒にやろうと。もちろんそれぞれバラバラにやっていくのも、例えばアートな部分ではみんな一緒にしていたら芸術はできないんですけども、でも同じ方向を向いている人間が一緒になろうという部分が、この文章で、自分たちでとか、最後にみんなで世界を動かそうよというのが見えると、非常にわかりやすくなるのかなと思っているので、少し個の段階から協働の段階へ持ってくるような内容を明記できるともう少し具体化するのかなと。地域の問題もですけど、確かに今加賀市も山中温泉地区はとんでもなく人口が減っていて60代以上が57%で半分以上なんですね。そうすると地元に戻ってこようというのはやっぱり小学校中学校のときに基盤として学んだ地域学習が非常に有効になってくると思いますし、戻らなくてもやはりそこに思いを馳せていただけたと思います。地域の礎があるからこそ、石川県とかそれから日本の国というものを背負ってグローバルに活躍する方が、今回オリンピック見てやっぱりそう思ったんですね。日本人のベースが世界に伝わった今回特に冬季オリンピックを見て、日本人の考え方というのはこういうことだよなという、要するに引っ張り合う落としあうじゃなくて称賛し合う社会が本来の日本社会ですから、そういうのも何かしら、もちろん小中

学校の段階では難しいですけども、個から少し人数を増やして行って協働して行って、みんなというベクトルが見えると、もう少し具体化するのかなとは思っているんで、これは私の個人的な意見ですが、実際にやっていく内容でそのようにできるかなと思っております。

○松本教育長 ありがとうございます。私の個人的な思いも含めて申し上げますと、ひとつは実はそこを私は1番悩んだところでありまして、結局1人では何もできないということは日々私自身も心がけながらやっているところなので、どういうふうに書くのかというところ、実は目指す姿の2行目のところにも、学んでいく中で協働・社会参画の基礎を築くということは当然必要な追及すべき姿だろうなというふうに思っていますのでそういうふうに変えていきます。私は悲観的な部分と楽観的な部分を持っていて、悲観的な面から申し上げると、みんなという言葉の意味合いとして、同調圧力・同質化欲求みたいなものにどうしてもつながりやすい社会だなということは残念ながら思っています。それは別にこの地域がということではなくて、日本全体に良くも悪くもなにかわからないんですけどある中で、やっぱり言葉の捉え方、強調するところを間違えると、どうしてもみんな横並びの意味のない協働になってしまうというか、たぶん山下委員がおっしゃっているのは力を合わせてより良いものをつくっていくという前向きな意味だと当然思うんですけども、そことの兼ね合いが難しく、このビジョンだけを読んで先生方が全てを考えてというよりは、県であったりそういう世の中全体であったり世論であったり、いろんなものを見ながらという中で、加賀市としてはちょっと突き抜けるぐらいの方が、最終的には当然バランスもとれていくんじゃないかなということもありますし、楽観的なことで申し上げますと、私は自分のしたいことや興味関心というのを、他人に著しい損害を与えない限り追及していくと、必ずまさにオリンピックでも、自分1人では達成できないんだということに気づけるんじゃないかなと思っています。日本が嫌で、取りあえず留学したら日本が大好きだと気付いたのと同じかもしれないし、もっともっと前向きに、自分がしたいことをするためにはいろんな人の力をと気づくという、いろんな気づき方があるかなというふうには思うんですけども、そういう願いもまさに山下委員のおっしゃる願いも込めてつくっているというところではありますので、文字としてはこういったかたちでできればと思ってはいるんですが、ただその中で自分1人だけで何か進めていけばそれで生涯ハッピーだよということは私も全く思っていませんし、それは学校の先生もそう思いいらっしやらないと思います。そういうことについて、何を書いてもどうしても誤解は尽きないというところではあるので、きちんと丁寧に、学校の先生方にも地域、保護者の方々にも説明するということは私の責任としてやっていきたいなと思っています。

○篠原委員 ふるさと学習を何もやっていないということじゃないんです。例えば私が学校訪問に行く三谷小学校があります。三谷小学校は非常に良いSTEAMの発表があったので、それで私達がやっているNPOの博物館で、三谷小学校の資料を全部貸していただいて広く市民の方に知らせようということで、そういう展覧会をやりました。そういうふうなことでそういう地域のことで素晴らしい発表をしているところをもっと地域の方に知らせていきたい。三谷地区だけじゃなくて大聖寺、錦城校区全体に知らせていく、あるいは加賀市全体に知らせていきたいという思いもあってさせていただいたんです。ただ今私が思っているのは例えば運動会なんかを見ていると、いろんな集団演技とかをやっているんですけども、例えば大聖寺は昔私が現役でいたときには大聖寺音頭というのがあったんです。それを実際に踊る盆踊りみたいな

ことをやっていたんですけど、最近はよさこいソーランとかをやってるし、それは比較的全国的にポピュラーなものなのかもしれませんが、それがなんの関係があるのかなと。例えば山中なら山中節、ものすごく盛んになって現代風にうまくに謡っていますし、そういうふうなことで非常にいい取り組みをしてるんですね。そういうのを実際に踊って、こいこい祭りをあわせてもらってやるとか、山代も僕が行ったときに山代音頭を踊っていたんです。片山津は片山津の湯のまつりのときに生徒が踊っていました。それぞれみんな各地区地区にそういうようなことを日常の学校の教育課程あるいは学校行事の中にどんどん入れていってほしいんです。小さいときにそういうことを入れていくと、大人になったときに例えばどこの出身だと、山中節を謡えるかと大体言われるんですよ。それが謡えたら非常にふるさとの誇りになります。そういうようなことを山中の地区でも熱心にやっていらっしゃるし、やっぱり大聖寺だったら能楽のことも一生懸命やっているし、そういうことなんかもどんどん学校教育の教育課程あるいは学校行事の中に埋め込むような感じで小さいときにきちんと理解していただきたい。それがふるさと教育のひとつじゃないかなというふうに思っています。実際にいっぱいやっていますので、それをもっと広げるかたちでやはり各市内の中で学校運営協議会と合致して、その中で地元の方の意見が、どんなかたちになっていくかはわかりませんが、最近は形式的になっているんじゃないかなという心配もものすごくあります。学校の出された教育課程はハイハイとしてそれで終わり、本来そんなものではないので、ともに教育課程をつくっていくとか、そういうような意見をどんどん言い合って最終的には人事まで口出すというところも昔はあったので、今もそういう具申はできるはずなので、そのようなかたちでのコミュニティ・スクールの強化といいますか。それをぜひこの今回の新しい BE THE PLAYER の中でふるさと教育ということの重視、そういうこともどんどん入れていただきたいというのが私の願いです。

○松本教育長 ご紹介いただいた三谷小学校の総合学習、私この1年間で最も印象に残っている子ども達の姿のひとつだと思っています。何がすごいって、子ども達が自分が学んだことを教えたくてたまらなくなっている姿というのがあって、まさに主体的対話的な学びかなと思います。私はこのふるさと学習もぜひ主体的対話的で深いふるさと学習であってほしいなと思っていて、まさにそこに至るまできっと様々な先生方のご苦勞とか工夫とかあったと思うんですけど、一部お話を伺っていると、やっぱり地域の方々も子ども達の主体性対話性とかを重視して、地域の発表会とかで70歳を超えた地域の方とかが子ども達の発表を聞いて、「私もこれ知らなかったです、とても勉強になりました」とすごくナチュラルにコメントをしていただけていたりとか、そういう姿がとてもいいなというふうに思いました。そうやって子どもの主体性対話性を大事にして、どうしたらもっと地域のことを自分事として好きになってもらえるかなということを話し合っていく場のひとつというのがコミュニティ・スクールだなと思います。コミュニティ・スクールの理想というのは結構地域によって様々ないろいろありますが、まさに人事とかも含めた高いものまで、地域でやっていくということもひとつの姿だということは文科省も示していますので、その場を通じて主体的対話的な学びというのがより実現できるように、またこのビジョンのもとで取り組んでいければなと思っています。ありがとうございます。

他、ございませんか。

○新滝委員 山代地区、庄、東谷、勅使、小規模の学校はすごく BE THE PLAYER をやりやすそうだなと思います。親御さんとかへの浸透具合という意味で。やっぱり山代のような大きなところは保護者に隅々まで説明と理解を深めていく機会というのが難しいのかなというふうなことはちょっと感じているところがあって、やっぱりタブレットを持たせているということにまだ疑問を持っていらっしゃる親御さんも結構いらっしゃるし、小規模な学級だったら割とみんなもう活発に意見を出し合ったりしているけれども、やっぱりちょっと悪さしている子もいるというような話も耳にして、本当かどうかかわからないけどそういうのを耳にしたみたいで大丈夫なんだろうかみたいな、不安な気持ちをまだお持ちで、いいとか悪いとかじゃなくて不安。不安な気持ちを持っていらっしゃる方がときどき、1、2回耳にしたので、今回こういう新しいツールもまた出るので、再度こちらの熱量をお伝えする機会を丁寧にとというか、回数なのかもしれないし、お話しする機会が教育長自らあってもいいかなと思います。

○松本教育長 ありがとうございます。今回保護者と書いたからには保護者の方々にも当然説明していきたいと思っていて、もちろん日程、いろんなことが日々あるんですけど、私は来年度できれば全 PTA に自分で説明していききたいなと思っています。山代で申し上げますと、去年に PTA の全国大会がありました。山代小学校の PTA が小学校の保護者に BE THE PLAYER のことをどれぐらいよくわかりますか、どうだと思っていますかみたいなアンケートをとったら、私の記憶の限りで恐縮ですが、大体回答率は半分、その半分の中で明らかに肯定的評価をしているのはその半分くらいで、大半はわからないという回答が多いという、その現状というのは謙虚に受け止めなくちゃいけないなというふうに思っています。だからより強化していこうということで保護者というふうに書いていて、大半のことはきちんと顔を合わせて話せば解決するというふうに私はちょっと個人的に楽観的にとらえていますし、まさに遊んでしまっているという現状がゼロでないということも隠しちゃいけないですし、まさにそういう子どもが実は授業に集中できていないということを覆い隠すような、みんな座ってびしっとやっておけというような一斉授業をやってはいけないという、そういう趣旨も含めてきちんと説明していくことは、私、教育委員会としてきちんとやっていききたいなと思います。まさにこのビジョンで何をするかということに関するご意見ありがとうございます。

川向委員、せっくなのでもしありましたら。

○川向委員 この間、子ども分科会の方に初めて行かさせていただいたんですけども、そのときに子どもの意見を一市民だと考えて、取り入れるというのはすごく素晴らしいなと思って、保護者の観点からいうと、なかなかそうやって子どもの意見を聞かなかつたりとか、そういった場面とか、こうしなさいあしなさいと言ってしまうこともあったりするんです。また先生に対しては何かあれば学校に言えばいいからとそういったとか意見とかも多々ありますし、保護者がちょっと学習できる場所とかそういう認識を深める機会があればいいかなと思います。

○松本教育長 まさにそういうそれぞれの、むしろ学校の先生とか少なくとも私より、その子のことを長く見ている方のご意見というものは、別に一概にそれは違うよ、間違って正していくよということではないというのはあるんですけども、これからの時代でどんな力をつけていきたいか、加賀市が教育で何を目指しているか、そしてそもそも国の学習指導要領の改訂とかで何を目標さんとしているかということも含めて、まずしっかり対話していくことだなというふうに思っていますので、ぜひその保護者の方とも私はお話できればなというふうに伺って

思いました。ありがとうございます。

○篠原委員　またこれは前回みたいに、全市民に折り込みで出す予定ですか。

○松本教育長　すみません、きちんとご説明しておらず恐縮ですが、今のところは広報かが4月号に折り込めるように考えております。

○篠原委員　その出した後でいいですから、先ほどから全PTAを回りたいという教育長の力強いお言葉もありましたけど、地域の方も非常にそれを待っていらっしゃるので、やはりこんなふうに学校現場は変わっていくよとか、変わろうとしているとか、こういうことについてやっぱり地域の方もぜひ知りたいということを、前は配って分けて見ておいてという感じでなかなか見ていただけないんじゃないかなと思うので、ぜひ教育長のお言葉でPTAあるいはまちづくりの会議でもいいですから、そういうときに一言、時間をとっていただいて、このビジョンはこんなことでこうなんだよということを説明していただくような機会をぜひ加賀市全体でつくっていただければ、教育長さんお忙しいところ大変恐縮なんですけど、ぜひそういうことができるよう今後考えていつていただきたいなというふうに思ってますので、よろしくお願いいたします。

○松本教育長　まさにそれは教育委員会の本来の業務のひとつかなというふうに思いますし、それを各学校でやってくださいというわけにも、それはまさに先生の働き方とかの観点から、なかなか調整が難しいところもあると思いますから、私としてできることをきちんとやっていこうと思っています。すみません、今後の予定のことをきちんと申し上げておらず恐縮ですが、4月に全戸配布ということと、今後総合教育会議をいつ開催できるかというところがまだ決まっておりますが、今のビジョンと同様に教育大綱という法律的な位置づけを持つものにこのビジョンをしたいと思っています。今ここで、本日審議で採決するというのは教育委員会としてこのビジョンというものでやっていきましょうというところの審議までというふうにお捉えいただければなと思っています。法的な教育大綱としての位置づけを持つためには総合教育会議を開催する必要があります。

○篠原委員　それはまた今年度中になさる予定はありますか。

○小茂出課長　3月は日程的に難しいですけど、4月ぐらいにできればと考えています。

○篠原委員　原則的には毎年するものですか。

○松本教育長　頻度の定めはございません。できて10年少しの制度ですので、自治体によってかなり運用はバラバラです。議題も様々だったりしますから、本当にもうご自由にご意見いただければというふうに開催の時は思っています。ただいずれにしても私としてはこれを教育大綱に位置づけない理由は逆にないので、ぜひ会議でかけたいなというふうに思っています。

それではそろそろ採決に入りたいというふうに思います。議案第5号、加賀市教育ビジョンについて賛成の方は挙手をお願いします。

○委員　全員挙手

○松本教育長　全会一致で可決といたします。

続きまして報告事項に入ります。報告第6号、来年度の組織再編について小茂出課長お願いいたします。

● 報告第6号 来年度の組織再編について

- 松本教育長 この件について何かご意見、ご質問ございませんか。
- 山下委員 前の組織図から格下げといったらあれですが、政策企画部とイノベーション推進部がなくなったわけなんですよ。これが課以下のデジタル室とかになってきて、今まで従前の教育 DX とかについては教育委員会が単独で行っていたものなのか、やはりこういう政策企画、イノベの方の協力があったのかというのをちょっと教えていただきたいです。
- 松本教育長 小茂出課長、お願いします。
- 小茂出課長 教育委員会の方はほぼ教育委員会のところでやっていますので、ただ連携できるところは市長部局の方と連携してやっているというかたちで、割と独立に近いかなと思っています。
- 松本教育長 他、ございませんか。
- 篠原委員 教育委員会の中で今回大きく変わったというのは、生涯学習課とスポーツ課の統合ですよ。統合されたことによってどういうメリットがあるのか、あるいはどういうデメリットがあるのかということのをちょっと教えてください。
- 松本教育長 小茂出課長、お願いします。
- 小茂出課長 人員の方も少人数でやっている課というところもありまして、イベントなどがある時には人員的なところが効率的にはできるかなというところがあります。
- 松本教育長 少しだけ補足しますと、先ほど採決いただいたビジョンの中でも、部活動の在り方改革というのはこれまでよりもさらに大きく枠をとってやっていくという中で、文化活動とスポーツ活動は、今は文化が生涯学習課で運動部活動はスポーツ課というかたちでやっておりましたが、これは一体に見ていった方が子ども達のこれからの放課後の在り方を考えるために良いのではないかという趣旨もあります。もともとはスポーツは社会体育、生涯学習は社会教育的な系列の中で相性は割といいかなというところなんです。またそれぞれのイベントを考えていく中でも、スポーツと別にアートといったものは密接不可分だという考え方もございますので、何かしらのシナジーということを期待していきたいなと思っています。デメリットといいますと、まさに単純に課長が忙しくなるとか、その中できちんと優先順位をつけてやっていくことや、より求められる知見の深さというのは難易度は上がるかもしれませんが、そこは教育委員会の事務局のメンバーをぜひ信頼していただければなと思っています。
- 篠原委員 一番心配しているのは、結局今までのそれぞれの独立した課の中の人員がありますよね。合併すると人員が減るんじゃないかなというのを一番僕心配しているので、それぞれの課のスタッフの数が変わらなくて、ただ合併したということならそれでいいんだけど、仕事もそれぞれあるので、職員の皆さんの負担がものすごく多くなっていくのではないかなという心配をしております。今後どういうかたちで人員配置されるかわかりませんが、そここのとこだけ配慮していただいて、教育長さんもできるだけたくさん的人员で、それぞれやっぱりイベントが多くなる課なので、土日などに出る可能性がものすごく大きいんですね。そうするとやはりただでさえ大変な課なので、そのところも踏まえてスタッフが極端に減ってそれで職員の方の負担が増すということのないようなかたちでの人員配置をぜひ教育長のお力をお願いをしたいなというふうに思っております。

○松本教育長 私として市長部局の方々とお話する中で、これはいわゆる一昔前に流行った整理合理化、行政改革ではなくてシナジーなんだということは私自身は強く思っております。他、ございませんか。なければ次の案件に入りたいと思います。報告第7号、「加賀温泉郷ウオーク2026」の募集開始について寺山課長お願いいたします。

- 報告第7号 「加賀温泉郷ウオーク2026」の募集開始について
寺山課長 資料に基づき説明

○松本教育長 この件について何かご意見、ご質問ございませんか。なければ次の案件に入りたいと思います。報告第8号、北前船の里資料館の休館について前田課長お願いいたします。

- 報告第8号 北前船の里資料館の休館について
前田課長 説明

○松本教育長 この件について何かご意見、ご質問ございませんか。ないようですので、これで報告事項は終わります。

その他、何かございますでしょうか。

○山下委員 加賀市の方に教育委員会として同じ思いであげていただきたいのが、市の除雪体制のことです。これは山中のコミュニティ・スクール、それから山中の市議と私と意見を共有させていただきまして、それぞれで上の方にあげていこうと思うんですが、加賀市の除雪体制の計画書、企画書を見ますと、それぞれ除雪の体制ができています。歩道については各町内の方、それから通学路についてはPTAとなっているんですけれども、現状として山中温泉地区は特に雪が多いところですから、非常に被害というか大きかったんですが、特に山中中学校のいわゆる宮の杜から中学校の前、それから山中温泉の上野町地内から中学校までの歩道がどうしてもあそこは融雪がないので、除雪は市の方で入っているんですが、雪が積まれている部分があったり、上原町の上の方の加美谷台とかは住民が周りにいるので若干開くんですが、宮の杜から中学校には住宅がなく、そこにふたば保育園もありますけれども、その歩道が全く開かない状態で、実際に宮の杜辺りから中学校に歩く生徒がどうしても車道を歩く、それからあそこは朝は通勤の多いところでございます。車両も多いわけでございます。その辺、市として除雪体制を計画として、特に歩道除雪、通学路除雪について、山中温泉地区だけではなくて、他地区でも同様のところがあるかもしれませんので、一旦教育委員会でも、次年度の除雪体制に向けて調査をしていただいて、実は調べてみると白山市については市の除雪体制の中に歩道除雪、それから通学路除雪というのが計画として入っております。もちろんこれは白峰とか山の方の地区だけではなくて、美川の中学校の周辺の歩道除雪は市が管理をして除雪をするというふうに計画が立てられております。その辺、加賀市は歩道は民間任せですし、ただ計画として市がやれというのではなくて、市が例えば町内会に依頼をするとか、まちづくり協議会に依頼をするとかいう体制で、ここは朝までにあけてくださいね。その分に対して例えば除雪費の補助とか、何かそういうかたちをできないかなという、計画路線に学校周辺の通学路除雪、これをやっていただきたいなという意見をさせていただきたいんですが、その辺につい

ていかがかなと思っているのですが、どうでしょうか。

○松本教育長 総合教育会議で市長にお話をするのにふさわしいんじゃないかと直感的には思いました。

○山下委員 たぶんコミュニティ・スクールの方からは教育委員会にあがってくると思いますし、荒谷議員の方から議会にもいずれあがってくると思いますので、教育委員会としても意見を共有できたらなと思っております。

○松本教育長 他、ございませんか。ないようですので、次回の教育委員会定例会の日程について小茂出課長お願いいたします。

● 次回教育委員会定例会日程について

小茂出課長 説明

○松本教育長 3月17日火曜日、10時からということで予定に入れておいてください。

それでは公開で予定されておりました案件につきましては以上になります。ご苦勞様でした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。